

南太平洋諸国支援プロジェクト

地球温暖化に起因すると言われる、
海面上昇による危機に直面する
南太平洋諸国を支援します。

Republic of Kiribati

Republic of Tuvalu



左) マングローブの幼木 中) マングローブの植え方を教わる子どもたち
右) キリバスに生育しているマングローブ

キリバス共和国

平均海拔が1m程度しかない同国は、温暖化に起因する海面上昇の被害を真っ先に受ける国の一つです。既に、井戸水に海水が混入して飲み水が不足したり、気候が変化し、降水量が増加することにより、主要産業である製塩業への影響など生じています。エコカード基金では雨水貯蔵タンクや、製塩の乾燥に役立つ、プラスチックトレイを寄贈しました。また、地域の方とともに環境意識を高める活動として、防潮堤にもなるマングローブ植林の準備を進めてきました。

➡ 2005年度の活動

現地の子供たちや住民、政府と一体となったマングローブの植林を実施しました。

パートナーであるNPO法人APSD、国際マングローブ生態系協会 (ISME) とともに9月、防潮堤としての効果もあり、生態系を豊かにする働きのあるマングローブの植林を実施しました。4,800本に上った植林には現地バレアウマイ小学校の子供たち、村の方々、トフィガ環境土地農業開発大臣をはじめとする同国政府関係者など約380人の参加があり、現地の環境への関心の高まりを感じさせました。

➡ 今後の活動

現地の子供たちや地域住民、政府が一体となった植林活動を継続するとともに、地域社会との協働をさらに推進していく予定です。また、より効果的に理解が深まるよう、小学校で利用できる環境教育教材の制作を進めていきます。



左上) 海岸浸食の影響を受けるココ椰子の木
右上) 家庭で使われている雨水貯蔵タンク 右下) 寄贈した給水車

ツバル国

キリバスと同様に海拔が低いツバルは、井戸水への海水混入などの問題は同じですが、国土が小さいため、さらに深刻です。雨が降らないときには政府所有の大きな雨水貯蔵タンクや、海水淡水化装置が、貴重な飲料水の供給源となりますが、その水を運ぶ給水車が足りない状況でした。エコカード基金では度重なる現地での調査を行い、ツバルの人々や政府との対話の中で支援策を検討してきました。

➡ 2005年度の活動

飲料水およびその供給手段の慢性的な不足に悩むツバルへ、緊急支援として給水車を寄贈しました。

エコカード基金では、ツバル政府からの要請を検討した結果、特に生命の源である水の供給が首都のあるフナフチ島で深刻な状況にあることに注目し、この対策として9月にツバル政府へ給水車を寄贈しました。寄贈式にはツバル首相も出席するほどの関心の高さでした。給水車は早速、水不足に悩む現地の人たちの各家庭に朝早くから夜遅くまでフル稼働で命の源となる飲料水を供給しています。

➡ 今後の活動

ツバルは地球温暖化の影響の最前線に位置しています。エコカード基金では今後もツバルの住民や政府の方々との対話を続け、ツバルで起きている事象を日本の社会へ発信するとともに、可能な支援を検討します。